

【講演レポート】JIPDEC連続ミニウェビナー

「ポストコロナのデータプライバシー 社会実装に向けて」 (第3回)

エストニアにおける新型コロナ対応-官民連携、データプライバシー-

ディスカッション

NORDX Legal Partner, Attorney at Law Risto Hubner氏

聞き手: Collabogate 共同創業者CMO 栗原 宏平氏

栗原氏: 電子政府を日本が進めるために何が必要ですか?

Hubner氏: 日本とエストニアは規模も違いますし、私は公共政策の専門家ではないので比較することはできません。ただ、エストニアでの経験からは、強力なリーダーシップと国としての戦略、さらにそれをサポートするための法的枠組や新たなテクノロジーに対応するための定期的な見直し・更新は重要だと考えます。

栗原氏: 個人と国がデータプライバシーに対して考える機会がありますか?

Hubner氏: EUの仕組みから説明すると、EU各国それぞれにデータ保護当局が存在し、そこがそれぞれ企業のパーソナルデータを取り扱っているかを管理監督しています。エストニアはまだそれほど活発な議論の機会を持っていませんが、それはまだ実際の執行がなされていないのも関係していると思います。ただ、時々GDPRの啓発イベントなどは開催しています。英国やアイルランドの当局は意識向上のために非常に活発な活動を行っており、GDPRに準拠するために必要な情報やガイドライン等も出しています。

栗原氏: 欧州各国の中で、エストニアではGDPR違反が1件もないのはなぜですか?

Hubner氏: エストニアに関していえば、GDPRが非常に複雑な規制であり、当局がGDPRを正しく執行するためには非常に注意する必要があると思います。最近のケースでは、法廷で異議申し立てが行われた際に却下されているケースもあります。また、現在エストニアのデータ保護当局に勤務しているのは20名程度と担当リソースが限られる中で監督業務も必要になるためでは、リソースの不足も原因の一つでしょう。

さらに、まだ意識啓発が必要な段階であるという点もデータ保護当局は理解していて、なぜGDPRが必要なかを個人だけでなく企業にも理解してもらう作業が必要です。もしかすると、今年の終わりが来年には執行例が出てくるかもしれません。

また、もう1つ重要な点として、GDPRの制裁金上限額は2,000万ユーロまたは世界の年間売上高の4%のいずれか大きい方となっている部分について、現在のエストニアのシステムは変更が必要になります。私を知る限り、エストニアとデンマークはEUの中でも独自の方法を取っていたので、執行する前に、いくつか追加の法改正が必要になります。

栗原氏：日本企業で制裁金を受けた事例はありますか？

Hubner氏：事例は把握していませんが、日本企業に限らず、GDPRの対象となる企業はどこでも違反をすれば、当局から指摘を受けるリスクがあります。GDPRはそれぞれの状況に応じて、必要な手段が取られます。

しかし、その中でも膨大な個人データを処理する企業、eコマースの企業や、関連して広告・マーケティングを行う企業、また健康データや顔認識、指紋等の機微データを扱う企業が対策を怠った場合のリスクは大きいです。機微データに関しては追加の対策が必要になりますが、扱うすべてのデータを守るためGDPR対策を行った方が良いでしょう。



講師：NORDX Legal Partner, Attorney at Law Risto Hubner氏

特にIT関連、データプライバシーに関する豊富な知識、経験を持つ弁護士として、バルト諸国最大のテクノロジー企業の1つであるNortalをはじめ多くのクライアント企業に対し、ビジネスを取り巻くさまざまな分野についてアドバイスを行っている。また、Legal Hackersのエストニア主導者として、スタートアップ企業の支援等に力を注いでいる。



聞き手：Collabogate 共同創業者CMO 栗原 宏平氏

大学時代にマーケティングを専攻し、議員秘書やNPOでのイベント運営に携わる。CollaboGate Japanでは大企業向けのブロックチェーンIDのデータ認証基盤開発を行う。ビジネス、政府領域のブロックチェーン及びビジネス領域でのデータプライバシー専門家として、多数の国際学会などで積極的に情報発信を行う。アメリカのワシントンDCを拠点に全世界に展開するNPO法人Government Blockchain Associationの日本代表を兼務。

本内容は、2020年5月25日に開催されたJIPDEC連続ミニウェビナー「ポストコロナのデータプライバシー 社会実装に向けて」「第3回 エストニアにおける新型コロナ対応-官民連携、データプライバシー-」講演後に、当日参加された方々からのご質問も踏まえたディスカッション内容をまとめたものです。